

## 式辞

春たけなわとなりました、本日、鈴鹿工業高等専門学校令和8年度入学式を執り行うことを大変喜ばしく思います。新入生の皆様とご家族、ならびにご関係の皆様方に、本校の教職員を代表してご入学を心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

私は本校の校長を務めます、藤本と申します。これから皆さんと過ごしていくことを、大変楽しみにしております。

今年度は、学科215名、専攻科26名、そして第3学年にはタイ高専とインドネシアからの留学生2名が新たに入学いたします。本校に入学される方は三重県内ご出身の方が多くいますが、県外からの方もおられますし、フィンランドからの交換留学生もお迎えいたします。学科の入学者は各地の様々な中学校を卒業されており、お互い顔見知りどうしの学生は少ないでしょう。多彩な人たちが集まっています。早く皆さんの友達を作ってください。

さて、中学校からの進学先の大多数が高校なのに対して、皆さんは高専を選ばれました。鈴鹿工業高等専門学校は1学年定員200名ですが、全国には国立の高等専門学校が51あり、そのほかに私立や公立も含めると、高専全体の学生数は1学年につき約1万人です。そして、今日入学される皆さんと同じ、15歳人口は全国で約100万人です。従いまして、皆さんは100人に1人の数少ない進路を選ばれたことになります。皆さんは、おそらく子供の頃よりモノづくりや情報機器などに強い興味を持ち、そして15歳にして工学の道へ進むことを決意されたことに、私は深く敬意を表したいと思います。皆さんと同世代の方々の多くは、これから受験勉強に多くの時間を費やすこととなりますが、ここにいる皆さんは工学の基礎学問とともに、手を動かしての物づくり、AIなどの情報技術のような実践的なことを早期より学ぶことになります。ぜひ皆さんの若いエネルギーを、様々な創意工夫を行うことに投入して、皆さん方が潜在的に持っている能力を早く開花させてください。

ところで、我が国は失われた30年と呼ばれた低成長の時代を経てきましたが、ようやく再び発展しようとしております。政府は17の成長分野を掲げて経済をけん引しようとしていますが、それらの大部分はモノづくりに関連しますが、一方では理工系人材の不足が指摘されています。いま、世界では各地で戦争が起きたりして激変していますが、モノづくりのための人材が特に必要とされることには今後も変わりなく、特にモノづくりを中心に学ぶ高専生の活躍が注目されています。

本校、鈴鹿工業高等専門学校は64年前に高等専門学校の制度ができたときに開学し、全国で最も有力な高専の一つとして、多数の人材を世の中に送り続け、本年3月には1万人目の卒業生が本校を巣立ちました。鈴鹿高専の卒業生は、各方面に活躍し

高い評価を得ておられます。皆さんも今後の我が国の将来に最も必要とされる数少ない人材として期待されており、ぜひ誇りをもって本学にて学んでください。

最後に大事なことを申し上げます。皆さんは、この鈴鹿のキャンパスで、15歳から20歳頃までの青春時代を過ごすこととなります。本鈴鹿高専では、知・徳・体の三育を重視する全人教育を行うことを建学の精神としています。すなわち、優れた知性を磨き、人格的に優れた技術者を目指し、さらに健全な身体を育む、ということです。これから、勉学や生活あるいは人間関係で悩んだり、ときには困難にぶつかることがあるかもしれません。私たち教職員は一丸となって皆さん方を見守ります。なにか困ったときには遠慮なく、私どもに相談してください。

皆さんが、この素晴らしい鈴鹿高専で学び、個性を伸ばし、たくさんの友達を作って、成長されることを心から願い、入学式に際しての私の式辞といたします。

令和8年4月6日

国立鈴鹿工業高等専門学校長 藤本慎司